

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 3701  
16年11月1日(火)  
・Fax 095-828-1953

## 全て剣をとるものは剣で滅ぶ(聖書) 国連の核兵器廃絶条約決議に思う

おはようございます。

昔、中国の楚の国に武器商人がいた。その商人は「この盾はどんな矛で突いても破れない」といい、また、「この矛はどんな盾でも突き破ることができる」と自慢していた。すると、ある客が、「その矛でその盾を突いたらどうなるのか」と尋ね、その商人は答えに窮した。という故事に由来し、つじつまが合わないこと」という意味だ。

十月二十八日、国連総会で核兵器禁止条約が可決された。核兵器がこの世に作られ、広島、長崎に投下された一九四五年以降、七一年目の歴史的な出来事で、評価したい。核兵器廃絶条約のもと、世界の国々が廃絶のための会議を始める。大きくいえば、反核・平和のための人類の一步だ。

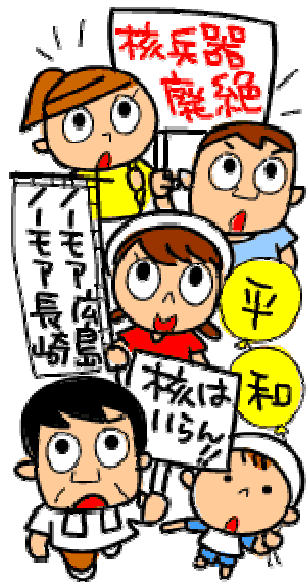


しかし、核兵器保有国の大半はこれに反対、棄権した。そして驚くことに被爆国の日本も反対した。

その理由を安倍首相は、「日本提案の核軍縮決議に核保有国が理解を示さない可能性があった」と国会で答弁し、岸田外相は「この条約は核保有国と非核保有国の対立を激化させるもの」と批判している。

事の正義は別にして、核保有国が核兵器禁止に反対するのは理屈があつた。核兵器は国を守るというからだ。しかし、非核保有国でしかも「唯一の」被爆国の日本が、核兵器廃絶に反対するとは、まさに裏切りである。アメリカの核の傘の下に日本の安全があるから、核は否定できないし、近隣国の中国、ロシア、北朝鮮が核保有だから、核の現実的な脅威があるからだ。

日本は一九九四年以降、核軍縮決議を提案し続けているが、この核軍縮決議の延長線上にこそ、核兵器禁止があるのであり、安倍首相の「弁明」は核軍縮にはもちろん、核兵器禁止にも背中を向ける論理で、矛盾している。

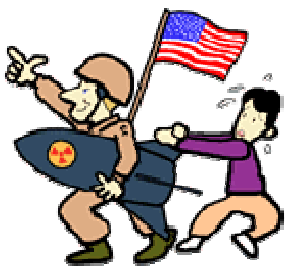


武器禁止にも背中を向ける論理で、矛盾している。

争論の結果である。人類の平和を守るためには、人類をすべて殺し尽くす核兵器が必要であり、その力が平和の源であるという考えである。まさに世界の国は矛盾の上に安住する「ダモクレスの剣」状態であり、危い核兵器に命を預けているのだ。

一九六一年にケネディ大統領が国連で演説した「地球のすべての住人は、核というダモクレスの剣の下で暮らしている。世にもか細い糸でつるされたその剣は、いつ切れても不思議はないのだ」を思い起こすべきだ。

中国の毛沢東はその著「矛盾論」の中で、「戦争における攻撃と防御、前進と後退、勝利と敗北はみな矛盾した現象である。双方はたたかいあつてはじめて、また結びついて、戦争の全体の形をつくり、戦争の発展をつながし、戦争の問題を解決する」と書いている。人が作り出した社会的矛盾は解決できるのである。



地球上のあらゆる矛盾した

いま世界には、核兵器を持つ国は、国連常任理事国の五カ国(米、中、英、仏)以外に、イスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮など十カ国ほどがあり、その数は一万六千発だとされる。全地球を何度でも破壊し尽くすに十分な数である。

これは、核抑止力という考えが生んだ現代の矛盾した戦争の発展をつながし、戦争の問題を解決する」と書いている。人が作り出した社会的矛盾は解決できるのである。

争象を解決する哲学・思想を弁証法というが、戦争という矛盾は平和的に解決することが一番大事である。この歴史的故事が「矛盾」であり、どんな強い武器でも、攻めるときはいいが、それが自らに向いたときは守りきれないという「平和」の教えなのだ。



そのためには国際的な組織「国連の決議をみんなで守ること。これが世界の基本的なルールである。この核兵器禁止条約の決議の意味は、世界の国々一九二ヶ国中、百三ヶ国の六四％が賛成したことにある。

さらにこの決議は、核兵器を「減らす」ではなく、「なくす」という点に特別の意味があり、まさに世界の多数国で核兵器廃絶が正しいことになったことである。

日本の反対票には怒りを感じているが、世界のすう勢としての希望はある。すべて剣をとるものは剣で滅ぶのだから。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。

めどせ、均等待遇、なくそう差別！

ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。